



川口市立西中学校の取組

1 本校の概要

本校は、川口市中心部の西側に位置する開校75年を迎えた伝統校である。全校生徒数583名、学級数16の中規模校である。



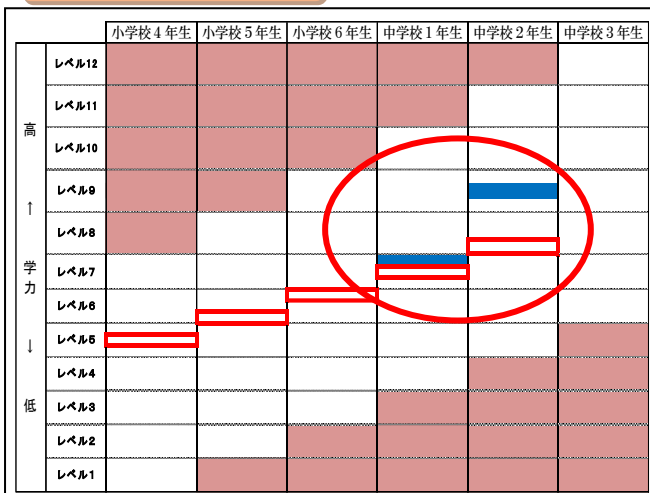
学校教育目標「豊かな心と学ぶ意欲を持ち、たくましく生きる生徒」のもと、その歴史と伝統とともに、文武両道の精神を大切にし、学業と部活動の両立を目指しながら日々の教育活動を行うことで、生徒は活気と潤いのある落ち着いた学校生活を送っている。学業の面においては、今年度「主体的に行動することで学ぶ喜びを実感させる学習指導」を研究主題とし、「教えられる・受ける授業」から「学ぶ・考える授業」に取り組んでいる。部活動では、運動部・文化部ともに盛んで、県大会出場の部が多く、関東・全国レベルの活動をしている部活動もある。

2 令和2・3年度の結果

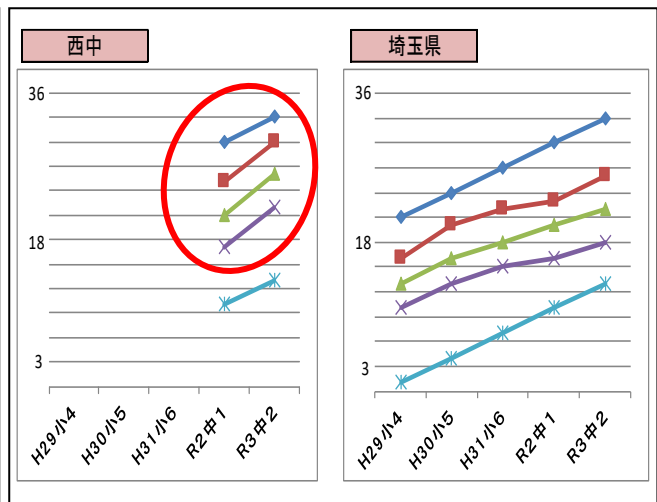
中学校1年生→中学校2年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



○本校の数学の学力の伸び（平均）が県の学力の伸び（平均）を3段階上回っている。

○全体的に順調な伸びを見せているが、特に中位層、上位層の伸びが大きい。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 見通しと振り返りの実施

学習課題を設定する際は、日常生活や社会と関わりを持たせることで、自分事として捉えられるようにした。また、生徒が見いだした問いから課題を作成することで、生徒は見通しを持ち、「何ができるようになるか」という資質・能力ベースのまとめ・振り返りを行えるようにした。

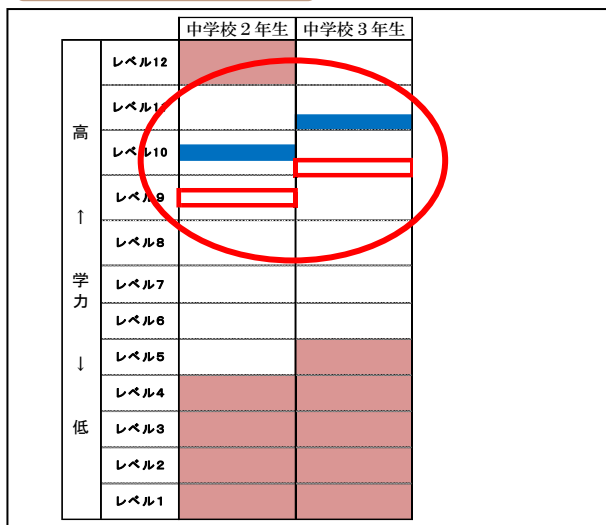
イ 自分の考えを表現し伝え合う時間の充実

絵・図・表・グラフ・式・言葉などを用いて考えたことを説明したり、互いに自分の考えを表現したりして伝え合う学習活動を積極的に取り入れた。その際、教師は、ファシリテーターとして、子供の発言をつなぐ役割を徹底した。また、生徒がそれぞれの考えに共通点や相違点を見いだしたり、問題の条件を変えて考えてみたりするなど、思考を深める場面を通して、統合的・発展的に考える力を育成した。

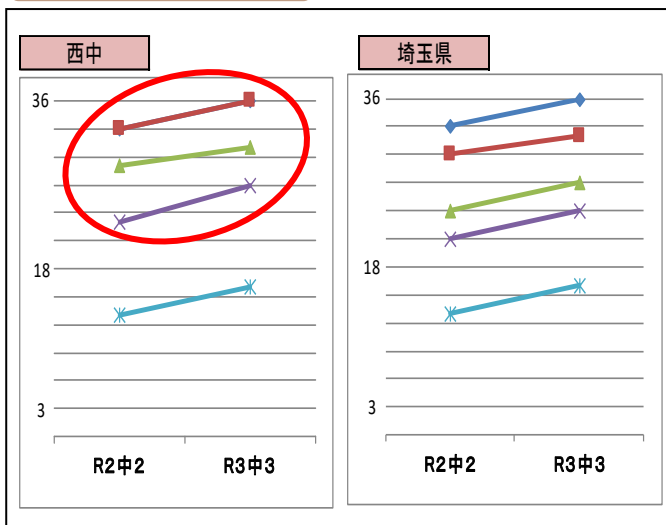
中学校2年生→中学校3年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【英語】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



- 全体的に学力のレベルの高い生徒が多く見られ、順調に学力を伸ばしている。
- 中位層の学力の伸びが大きい。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 生きて働く知識・技能の定着を図る指導

新出文法事項の導入の際に、関連する既習言語材料を織り交ぜながらモデルを示すとともに、繰り返し活用する活動を行うことで、多様な表現の定着を図った。「学習したことを用いて聞く・話す・読む・書くことができた」等の小さな成功体験をスモールステップで積み上げることで、学習内容の定着を図る指導を行った。

イ ICT端末を授業に活用した取組

ICT端末を教師の評価や見届けに活用するだけでなく、生徒が自分の発話内容を振り返ることに活用した。例えば、録音する機能を使い生徒の録音した音声を用いて個々の評価をきめ細かく行うだけでなく、自分の音読や発表の様子を聞いてより相手聞き取りやすいよう工夫するなど生徒の取組にも生かすことができた。また、アンケートや投票、小テストを簡単につくることができるアプリ（Forms）を用いてこまめに小テストを授業内で実施し、生徒へ結果のフィードバックを容易に行うことで、きめ細かな指導や評価をすることができた。

学校全体での取組

ア 「5つの授業実践」を意識した授業

「教師は授業で勝負」するために「1 基本的な学習ルールへの定着」「2 ねらいを明確にし、学習に見通しを」「3 ねらいに迫る発問・活動の工夫」「4 意欲を高める教師の声かけ」「5 達成状況の見届けと支援（振り返り）」の5つについて常に教員が意識することで、毎授業において効果的な見通しと振り返りのある授業を行った。

イ 各教科等におけるICT端末の積極的活用

各教科等においてICT端末の積極的な活用を図り、個別・協働的な学びを取り入れ、学習の充実を図った。例えば、各教科等のそれぞれの単元において、生徒が個々に調べ学習等で用いたり、ブレイクアウトルームを用いてグループ学習に取り組んだりすることで、一人一人の生徒が主体的に学ぶ意欲を持って学習に取り組めるようになった。